



## 政治のホンマを伝えるチラシ

市が新規事業の説明の際に「タウンミーティングで出た意見を採用しました」と述べることがあります。本当に優先順位が高いものなのか、それとも行政が都合の良い意見だけを「つまみ食い」しているのかが分かりません。公正な意思決定であることを市民

### つまみ食いを防ぐ

市民の声を市政に活かすためには、これまでのような「濃く狭い場」に加え、「薄く広い空間」が必要です。他市ではネット上で市民が意見を表明したり、他者の意見に賛同したりできる仕組みが広まっています。ゲームの「マイクラフト」や「あつまれどうぶつ森」みたいな感覚で市民同士や市民と行政が市の課題について対話できれば、現実空間である必要はないのです。

### 広く意見を集める

## わたしの声は入ってる？

丸谷市長は対話と共創のまちづくりを掲げ、3年で80回のタウンミーティング等を開催、2600人を超える方が参加しました。市民の声を直接聞き、市政に活かすことは評価する一方、仕事や家事等で参加が叶わない人や、人前で意見を発表することに抵抗がある人が多いのも事実。「私の声が明石市に届いている」と多くの市民が感じられるように、行政と議会がそれぞれ向き合うべき課題をお伝えします。

# 対話と共創ってなんなん??

### 議会も対話しよう

示すためには、出た意見がどのように検討・比較・決定されたのか見える化する必要があります。議会は市長と別機関です。議会としてタウンミーティングや議会報告会を開き市民のニーズやアイデアを集めなければなりません。議員は30人いますので、少数グループで地域を細かく回ったり、特定のテーマについて深掘りする勉強会を市民と一緒にすることが期待されます。ポイントは個人や会派でなく、議会全体で公式に取り組むことです。

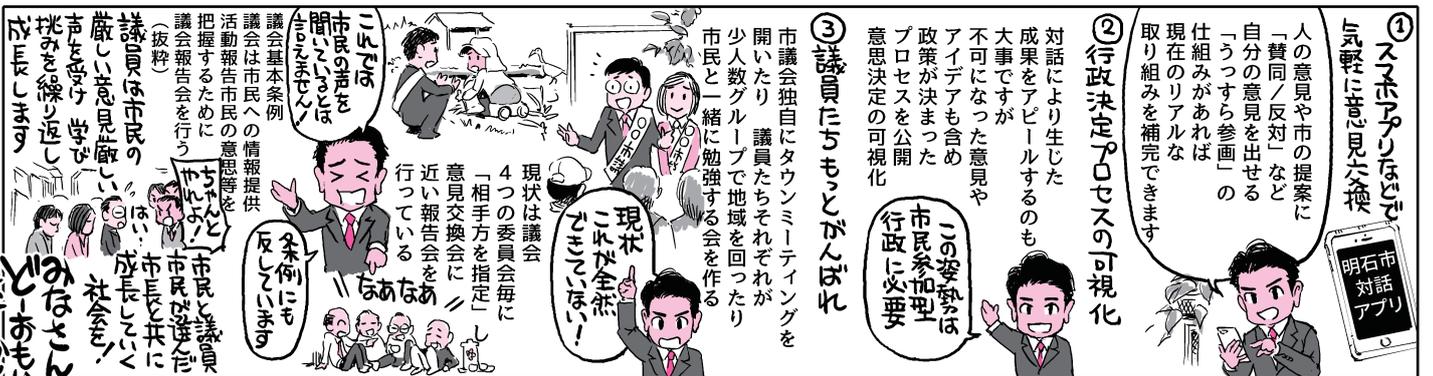
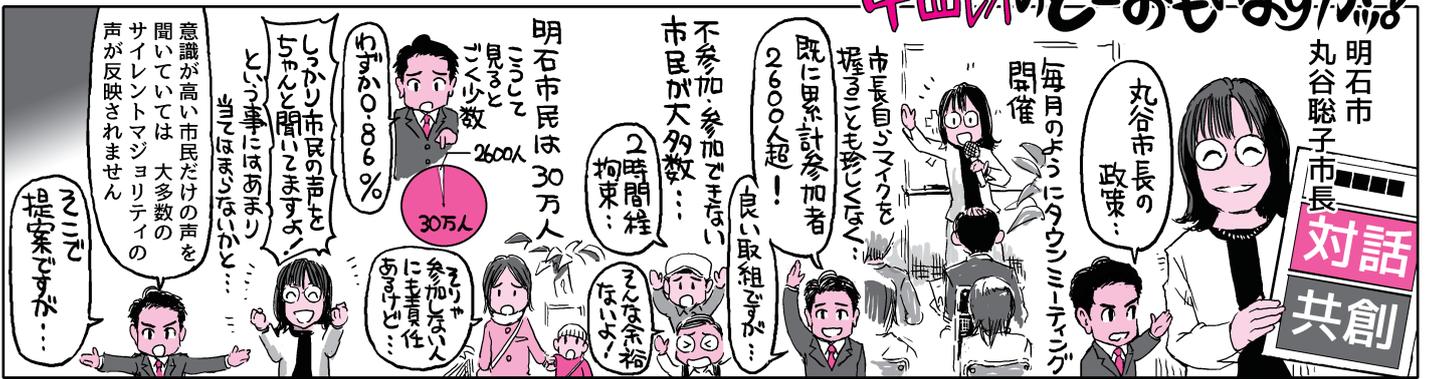
### 自分たちで作った条例

議会が自ら制定した議会基本条例には「議会は、市民への情報提供、活動報告、市民の意思等を把握するため、市民と議員が自由に意見及び情報を交換する議会報告会を行うものとする」(第6条とあります。ところが今ややっていることは、ごんまりした意見交換会に過ぎません。

### 議会報告会をする

「議会は何やってるんだ!」「こんなことも答えられないのか」と厳しい声が出ます。辛いと受け止める議員が多いかもしれません。厳しい声を受け、勉強してまた挑んでを繰り返して議員はレベルアップします。恥をかいったり冷や汗をかいたりすることは、市民に信頼される議会を作るために必要なのです。

## 中西レオのおもしろいかな!



おもしろいかな!